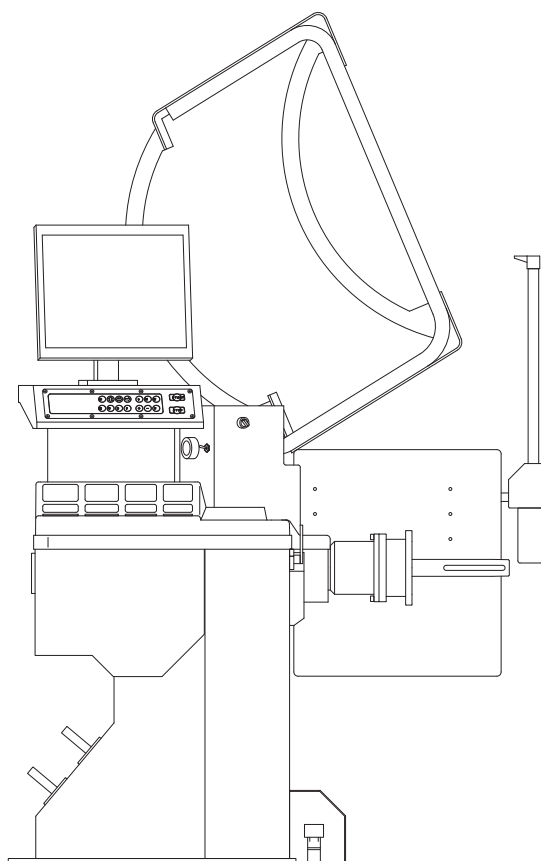


取 扱 説 明 書

COMPUTER WHEEL BALANCER

DYNAMAX B1-MAX



※取扱説明書が現品と異なる場合は、販売会社まで請求してください。



警 告

製品を使用する前に必ず取扱説明書をよく読み、充分理解してから使用してください。
この取扱説明書はいつでも使用出来るように大切に保管してください。



小野谷機工株式会社

目 次

1. まえがき	1
2. 使用目的	1
3. 危険・警告・注意事項	2
(1)警告ラベル貼付位置・内容.....	3
(2)危険・注意事項.....	5
(3)一般的な注意事項.....	6
(4)設置上の注意.....	6
(5)レーザーについて.....	7
4. 各部の名称	8
(1)本体部の名称.....	8
(2)表示部の名称.....	9
(3)操作部の名称.....	9
5. 操作手順	10
(1)準備作業.....	10
(2)ホイールの装着手順.....	11
(3)モードの切り替え.....	13
(4)カバー連動切替スイッチ.....	14
(5)カバー照明スイッチ.....	14
(6)測定手順.....	15
(7)修正結果の確認.....	22
(8)ファインスイッチ.....	22
(9)ロック／解除スイッチ.....	22
(10)再演算機能.....	22
(11)WAS機能の使用手法.....	23
(12)MT機能の使用手法.....	25
6. 標準付属品・オプション品	26
7. 定期点検	27
(1)定期点検.....	27
(2)消耗品.....	27
8. 故障と処置	27
9. 仕様	29
10. 製品保証規定	30
(1)保証規定.....	30
(2)保証請求方法.....	30
(3)アフターサービスについて.....	31
(4)設置(据付)及び移設について.....	31

1. まえがき

この度は弊社の**ホイール balanser**をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

本機をご使用になる前に必ずこの取扱説明書を注意深く読み、よく理解してからご使用下さい。

取扱説明書に記載されている注意事項及び使用方法をよくご理解いただかないと、適正な本機的能力を発揮できないばかりか、人身事故やタイヤ・ホイールの損傷につながりますので充分なご理解のうえ正しくご使用下さい。

尚、取扱説明書・注意ステッカー等は大切に ご使用して頂き万一紛失・汚損された場合は、速やかに購入のうえ、正しく保管・貼付して下さい。

2. 使用目的

このホイール balanser は普通乗用車のホイールバランスを測定、修正することの出来るホイール balanser です。

尚、オプション部品を取り付けることによって、ライトトラックのホイールバランスの測定、修正が可能です。

3. 危険・警告・注意事項



警 告

この取扱説明書では「危険」「警告」「注意」について次のような定義と警告表示を使用しています。警告表示は、安全作業のために重要な事柄です。

人身事故や財物損害防止のため重要な事柄が記載されていますので、必ず理解してからご使用してください。



危 険……取扱いを誤った場合に、使用者が死亡、又は重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。



警 告……取扱いを誤った場合に、使用者が死亡、又は重傷を負う恐れが想定される場合。



注 意……取扱いを誤った場合に、使用者が障害を負う危険が想定される場合及び物的損害のみの発生が想定される場合。

(1) 警告ラベルの貼付位置・内容

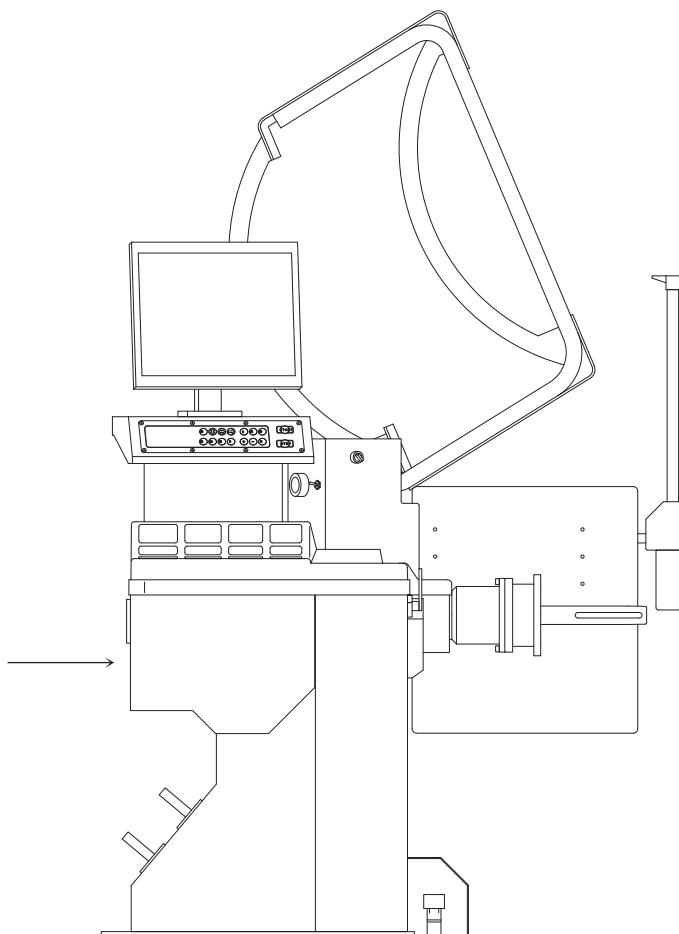


注 意

警告ラベルは大切に使用してください。剥がれたり汚損した場合は速やかに購入のうえ、正しく貼付してください。

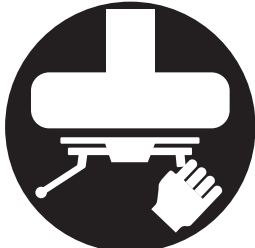
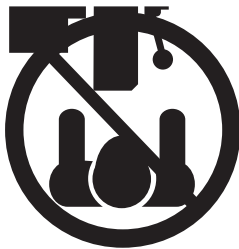
警告ラベル貼付位置

 警 告	
 回転中のホイールに触れたり、手で止めようとしないこと。 巻き込まれて大ケガをする恐れがあります。	 回転中はホイールガードを開けないこと。 小石、ウェイトが飛んで怪我をすることがあります。
 ホイールはゆるまないうちに取り付けること。 回転中に飛び出す恐れがあります。	 ホイールの正面に立たないこと。 小石、ウェイトが飛んで怪我をすることがあります。
 取扱説明書をよく読み、理解した上で使用すること。 誤操作により思わぬ事故の可能性が あります。	ここに示す警告事項は、ホイールバランサーの取り扱い方法を誤った場合に、使用者が怪我を負う可能性が想定される事柄です。 警告ラベルは、はがれや汚損された場合、お買い上げの販売会社から購入の上、正しく貼付してください。
巻き込まれ防止のため、タイヤカバーを必ず設置し取り外さないで下さい。	



警告ラベル内容

※下記警告ラベルが本体に貼付されています

 警 告	
 回転中のホイールに触れたり、手で止めようとしないうこと。 巻き込まれて大ケガをする恐れがあります。	 回転中はホイールガードを開けないこと。 小石、ウェイトが飛んで怪我をすることがあります。
 ホイールはゆるまないよう確実に取り付けること。 回転中に飛び出す恐れがあります。	 ホイールの正面に立たないこと。 小石、ウェイトが飛んで怪我をすることがあります。
 取扱説明書をよく読み、理解した上で使用すること。 誤操作により思わぬ事故の可能性が あります。	ここに示す警告事項は、ホイールバルンサーの取り扱い方法を誤った場合に、使用者が怪我を負う可能性が想定される事柄です。 警告ラベルは、はがれや汚損された場合、お買い上げの販売会社から購入の上、正しく貼付してください。
巻き込まれ防止のため、タイヤカバーを必ず設置し 取り外さないで下さい。	

(2)危険・注意事項



注 意

- (1)操作に当たっては作業服、安全靴を身につけ安全な作業を行って下さい。
- (2)回転中に振動や異常音、変形回転が発生したら、ホイールガードを開けずにストップスイッチを押し、直ちに停止させて下さい。
- (3)センター軸が緩んでくるとホイールのセンターリングが不完全となり誤差の原因となります。時々確認して下さい。
- (4)ウエイトはしっかりと指定場所に取り付けて下さい。
- (5)タイヤについているゴミ、小石等は全て取り除いて下さい。
- (6)スタートスイッチを押す前に、必ずホイールガードをセットして下さい。
- (7)落雷時には電源を必ず切して下さい。異常電圧の発生で本体内部の電子部品を壊す恐れがあります。
- (8)本機を清掃する場合は、水洗いを絶対にしないで下さい。
- (9)本機を移動する場合は、主軸を持って移動したり主軸に衝撃を与えないで下さい。
- (10)本機はレーザー光を用いています。使用者や近くに入る人もレーザーの発光源を覗き込まないで下さい。(レーザークラス:クラス2)



危 険

電気部品に触れる必要の場合は必ず元電源を切して下さい。
元電源を入れたまま電気部品に触れる必要のある時には
端子等、通電部品に絶対触れないようにして下さい。
※死亡又は重傷の可能性があります。



(3)一般的な注意事項

- ①取扱説明書をよく読みよく理解してから使用して下さい。
- ②このホイールバランサーは使用方法を熟知した人以外は使用しないで下さい。
- ③始業点検及び定期点検は取扱説明書の本文に従って必ず実施して下さい。
- ④運転時に異常な状態の時は、ホイールバランサーの使用を禁止して電源を切り、お買い上げの販売店に連絡して下さい。
- ⑤本機は防水仕様になっていませんので、屋外設置や水による洗浄は避けて下さい。
- ⑥このホイールバランサーはタイヤ・ホイールのバランス測定以外には使用しないで下さい。

(4)設置上の注意

- ①本機の据付は平坦なコンクリート上に標準付属品のアンカーボルト3本でしっかりと固定して使用して下さい。アンカーボルトでの固定を怠ると本機の転倒防止としては勿論のこと、タイヤのアンバランス以外の振動をキャッチすることになり、正確な測定結果が得られません。
- ②本機内部には多くの電気部品を使用しており、水気は故障の原因となります。
本機の設置場所は下記のところは絶対に避けて下さい。
 - ・雨水のかかる場所
 - ・水をよく使い湿気の多い場所
 - ・直射日光の当たる場所
 - ・特にほこりの多い場所
 - ・振動の多い場所
 - ・赤外線ヒーターや高輝度のランプが近くにある場所
- ③本機を移動する場合は主軸を持って移動したり、主軸に衝撃を与えないで下さい。
- ④設置の際に感電事故の防止のために必ずアース設置を施して下さい。尚、ガス管などの爆発の危険があるものには絶対に接続しないで下さい。
- ⑤3相200Vの配線工事は必ず動力工事有資格店にご依頼下さい。
電源は本機の近くに必ず1.5kW以上の専用ブレーカを設置してそこから配線して下さい。
又、本機の回転方向はウエイトカバーの矢印方向にして下さい。
- ⑥本機を吊り上げる為の吊りフックが、本体の背面にボルト2本で固定してあります。
設置が終了したら、吊りフックを固定しているボルト2本を外し、吊りフックを取り外して下さい。吊りフックは移設等の際に必要ですので大事に保管して下さい。

(5)レーザー光について

①本機は赤色レーザー光を採用しています。

②使用者や近くに入る人もレーザーの発光源を覗き込まないで下さい。

③直射日光の当たる場所で使用になると、レーザー光が検出しにくくなりますので、設置する場所にご注意下さい。

また、本機の近くには赤外線ヒーターや高輝度のランプを置かないで下さい。

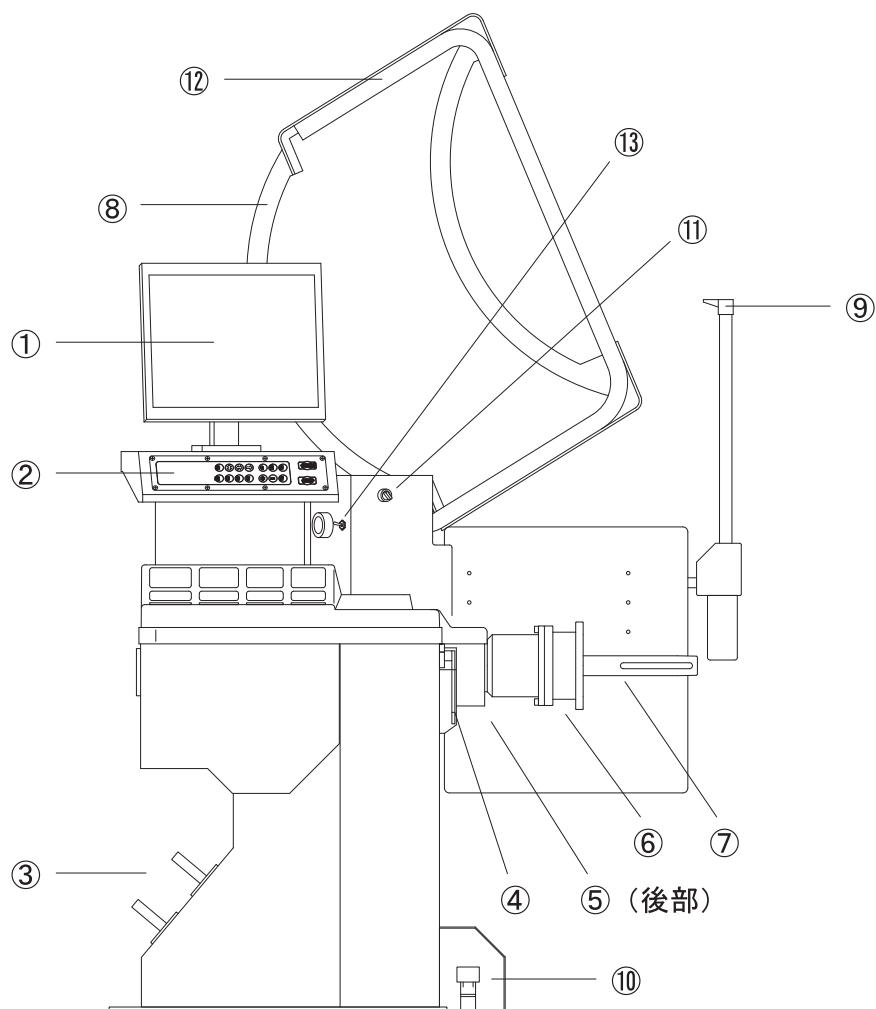
④本機はレーザーにより、ホイールの輪郭を認識するようにプログラムされています。ホイールがメッキホイールの場合、レーザー光が検出しにくくなり、ホイールの輪郭を認識できない場合があります。

また、ホイールの内面が幾何学的に極端な形で形成されているようなホイールの場合もホイールの輪郭を認識できない場合があります。

このような場合は、スケール入力でホイールデーターを入力することにより、正確にバランスを測定することができます。

4. 各部の名称

(1) 本体部の名称



①表示部

②操作部

③パーツハンガー

④ディスタンススケール

⑤レーザーセンサー

⑥主軸

⑦センター軸

⑧ホイールガード

⑨アウトサイドゲージ

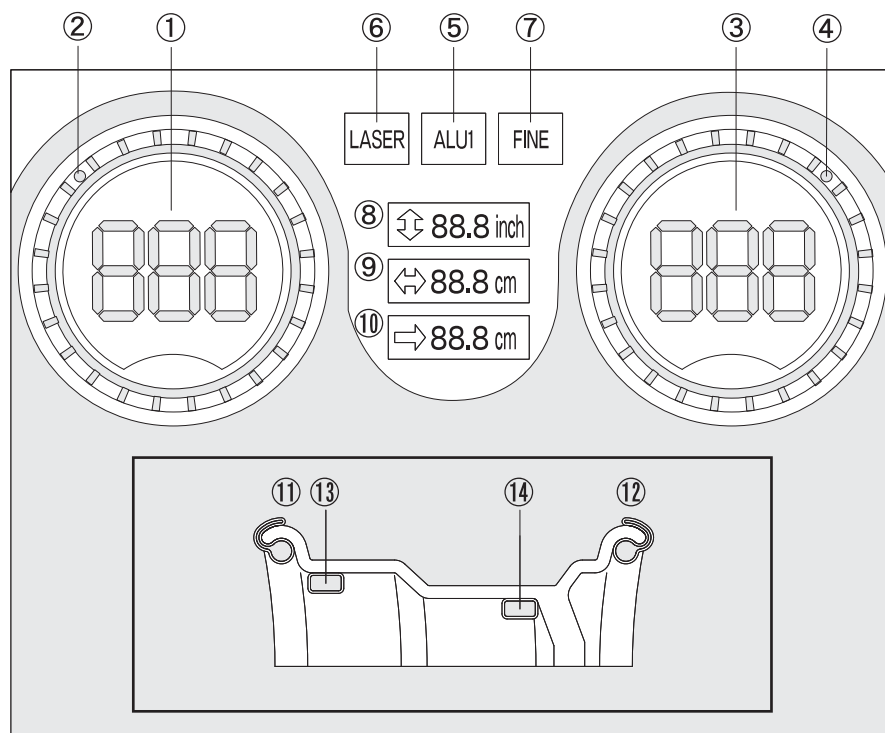
⑩ペダル

⑪カバー連動切替スイッチ

⑫カバー安全スイッチ

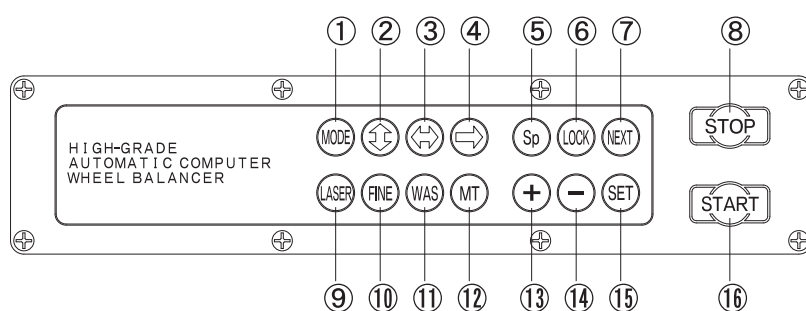
⑬カバー照明スイッチ

(2) 表示部の名称



- | | | |
|---------------|-------------|------------|
| ① イン側グラム表示 | ⑥ レーザーモード表示 | ⑪ イン側打込表示 |
| ② イン側ポジション表示 | ⑦ ファインモード表示 | ⑫ アウト側打込表示 |
| ③ アウト側グラム表示 | ⑧ リム径表示 | ⑬ イン側貼付表示 |
| ④ アウト側ポジション表示 | ⑨ リム幅表示 | ⑭ アウト側貼付表示 |
| ⑤ モード表示 | ⑩ ディスタンス表示 | |

(3) 操作部の名称

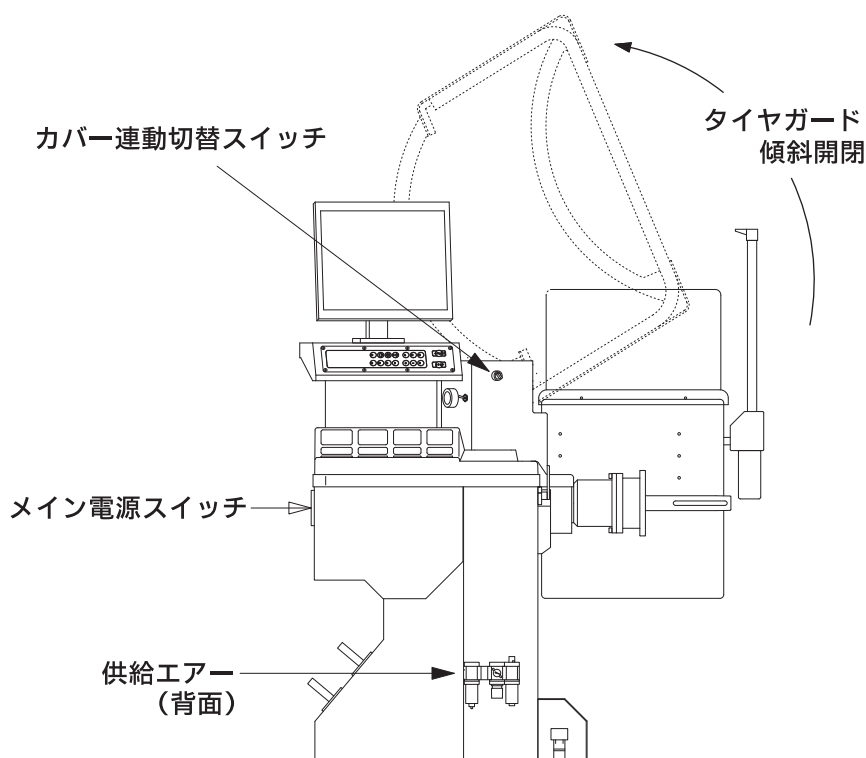


- | | | |
|--------------|-------------|------------|
| ① モードスイッチ | ⑦ NEXTスイッチ | ⑬ +スイッチ |
| ② リム径スイッチ | ⑧ ストップスイッチ | ⑭ -スイッチ |
| ③ リム幅スイッチ | ⑨ レーザースイッチ | ⑮ セットスイッチ |
| ④ ディスタンススイッチ | ⑩ ファインスイッチ | ⑯ スタートスイッチ |
| ⑤ Spスイッチ | ⑪ WASスイッチ | |
| ⑥ ロック／解除スイッチ | ⑫ マッチングスイッチ | |

5.操作手順

(1) 準備作業

- (1) 本体の供給エアースポットにコンプレッサー等のエアースポットを接続してください。
- (2) カバー連動切替スイッチを「OFF」状態にしてください。
カバー連動切替スイッチを「ON」状態のままメイン電源スイッチを「ON」にすると、タイヤガードが自動的に開きます。
- (3) 本機側面のメイン電源スイッチを「ON」にしてください。
- (4) カバー連動切替スイッチが「OFF」状態を確認の上、手動にてタイヤガードを開いてください。
(タイヤガードは斜めに開閉します)



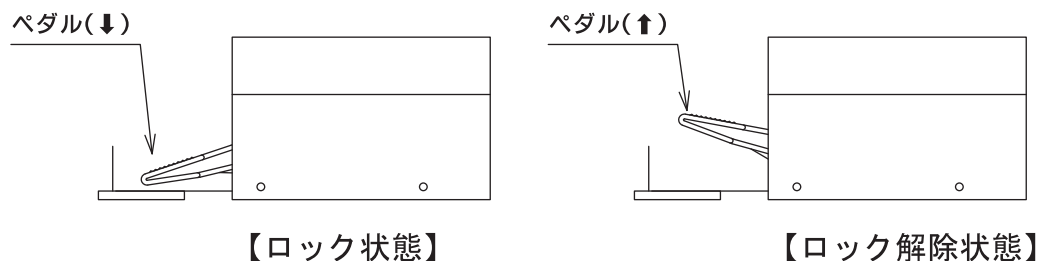
注 意

本機は供給エア圧が設定エア圧を満たさなければ、タイヤガードの手動及び自動での開閉が出来ません。供給エアの接続・エア圧の確認をしてください。

(2)ホイールの装着手順

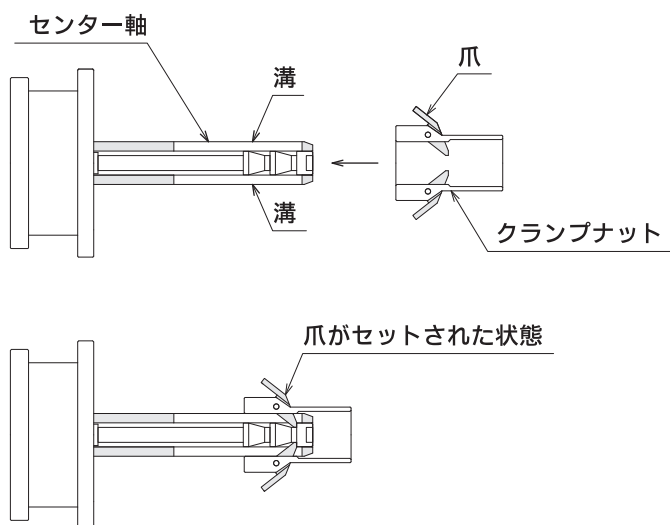
【エアロックの使用方法】

本機はペダル操作にてホイールをロック又はロック解除を行います。ペダルを踏み込みペダルが下がっている状態がロック状態、ペダルを再度踏み込みペダルが上がっている状態がロック解除状態です。



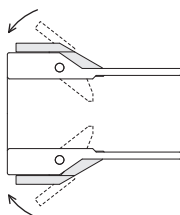
●クランプナットの装着方法

ペダルをロック解除状態にして、クランプナットをセンター軸に入れます。クランプナットの爪をセンター軸の溝に合わせ爪がセットされたのを確認します。この状態でペダルを踏みクランプナットが引き込まれロックします。



●クランプナットの脱着方法

ペダルをロック解除状態にして、クランプナットの爪を握り爪先を起こした状態でセンター軸 から抜きます。





注 意

測定ホイールはいずれの場合も、古いバランスウエイト、タイヤの溝にはさまっている小石や異物を全て取り除いて下さい。

ハメ合い部とあたり面はゴミ・砂などが付着していないことを確認したあと、次のように正しく取り付けて下さい。

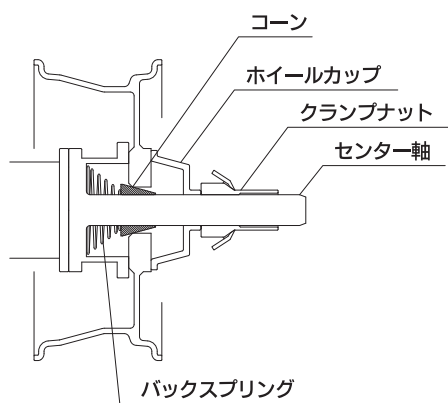
(A) バックコーンとして使用する場合

図①のようにセンター軸にバックスプリングとホイールのハブ穴に合ったコーンを入れホイールをコーンの上にのせます。次にホイールカップを入れ、クランプナットをセットします。ペダルを踏み込みロックします。この時コーンが奥まで入り込むような場合はバックコーンとスプリングの間に、一番短いカラーを入れて使用して下さい。（バネの収縮が少ないので、カラーを入れて収縮を大きくして、コーンによるセンター出しを正確にします）

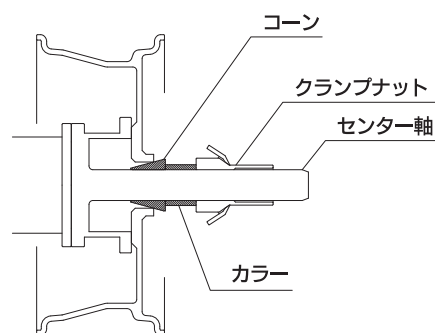
(B) フロントコーンとして使用する場合

図②のようにハブ穴に適したコーンと、カラーを用いてクランプナットをセットします。ペダルを踏み込みロックします。

【①バックコーンの場合】



【②フロントコーンの場合】



注 意

クランプナットをセットしてペダルを踏み込みロックした後、ホイールが確実にロックされているか確認して下さい。コーンのサイズやカラーのサイズにより、ペダルを踏み込んでも、クランプナットの移動量が足らず、ホイールがロックされない場合があります。クランプナットの移動量に応じて、コーン又はカラーのサイズを変更して下さい。

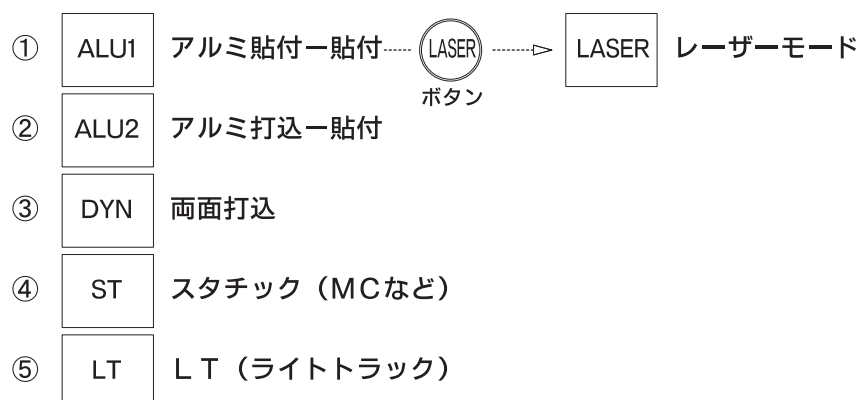
(3) モード切り替え

MODEを押すと①－②－③－④－⑤－①の順にモードが選択されます。

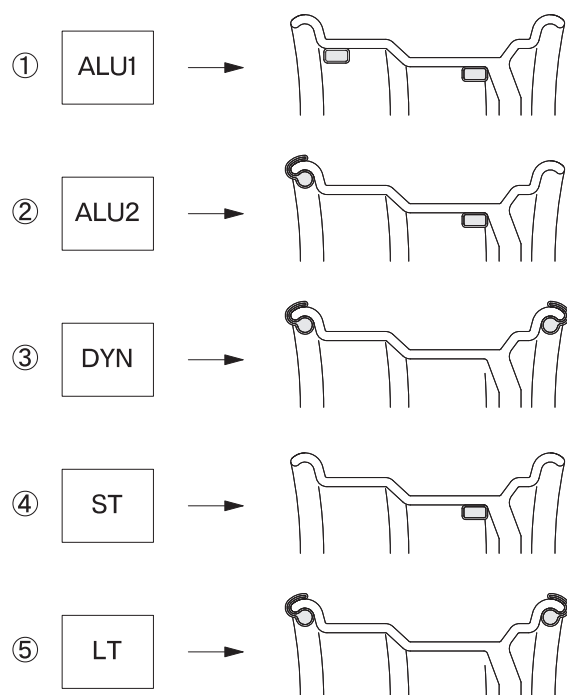
また、モードと連動してホイールの表示が切り替わります。

ALU1モードの時のみ、LASERボタンを押してLASERモードになります。

モード表示



ホイール表示



(4)カバースイッチ

(A)カバースイッチを「ON」状態で作業

全てのモードに於いて、測定する時に **START** ボタンを2度押したら、タイヤガードが自動的に閉まります。

タイヤガードが完全に閉まったら、タイヤホイールが回転し測定を始めます。

モード **ALU1** で **LASER** モードの時のみ、**START** ボタンを2度押したら、タイヤガードが自動的に閉まり始めると同時に、レーザーが主軸の後から出てきて、ホイール形状を読み取ります。

測定が終了すると、自動的にタイヤガードが開きます。

タイヤガードが自動で閉まる途中で **STOP** ボタンを押すと、その場で停止して自動で開きます。

測定中に **STOP** ボタンを押すと、タイヤホイールが停止して、タイヤガードが自動的に開きます。

カバースイッチについて

カバースイッチは、タイヤガードが自動で閉まる途中で、カバースイッチ部に接触すると、タイヤガードがその場で停止して自動で開きます。

タイヤガードが閉まり、タイヤホイールが測定中にカバースイッチを押すと、測定が停止します。この場合タイヤガードは自動的に開きません。タイヤガードを開くには **STOP** ボタンを押して開いてください。

(B)カバースイッチを「OFF」状態で作業

全てのモードに於いて、タイヤガードの開閉状態に関係なく、各操作が実行可能です。タイヤガードの開閉は手動操作にて開閉してください。

(5)カバースイッチ

カバースイッチが↑方向になっていると、通常待機状態の時は、照明が点灯しています。**START** ボタンを2度押して測定を開始すると、自動で照明は消えます。測定終了後、再び自動で照明が点灯します。

カバースイッチが↓方向になっていると、常に消灯状態になります。

(6)測定手順

1. アルミの両面貼付の場合

MODE を **ALU1** にして下さい。

1-1. レーザー自動入力の場合

LASER ボタンを押して画面に **LASER** を表示させます。

START ボタンを2度押すと、レーザーが主軸の後から出てきて、ホイール形状を読み取ります。

レーザーが戻ってきたら、ホイールデータが入力され、自動的にバランス測定に入りタイヤが回転します。また **LASER** の表示は消えます。

バランス測定後、アンバランス量が表示され、自動的に停止します。次にIN側のアンバランスポイントに自動的に移動して停止します。そしてレーザーが出てきてウエイト取付位置をレーザーポイントします。

NEXT ボタンを押せば、OUT側のアンバランスポイントに自動的に移動して停止します。そしてレーザーがOUT側に移動しウエイト取付位置をレーザーポイントします。レーザーポイントの位置に表示されたウエイトを取り付け、修正結果の確認をするため

START ボタンを2度押すと、レーザーが収納され、再度バランス測定を行います。

同じホイールを続けて測定する場合は、そのまま **LASER** の表示は消えたまま **START** ボタンを2度押すだけで、バランス測定を行い、アンバランス位置をレーザーポイントします。

別のホイールを測定する場合は、ホイールサイズが異なるので、**LASER** ボタンを押して **LASER** を表示させ、**START** ボタンを2度押し、レーザーがホイールデータを読み取ります。



注 意

ホイールサイズが内径で300mm未満の場合やホイールがメッキホイールやホイールの形状により、レーザーがホイール形状を読み取れなかった場合はエラーを表示し動作が停止します。

このような場合はホイールデータをスケールで入力して下さい。

レーザーが出ているとき **STOP** ボタンを押すと、レーザーが収納されレーザーの動作がリセットされます。従って、そのまま **START** ボタンを押してバランス測定をしても、レーザーポイントはしません。

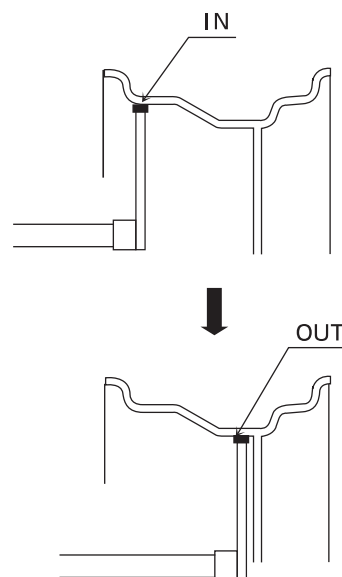
レーザーが出ているとき **LASER** ボタンを押すと、レーザーの動作を記憶したままレーザーを収納するので、そのまま **START** ボタンを押してバランス測定をしたら、レーザーポイントをします。

1-2. スケール自動入力の場合

スケールのヘッドを内側のIN側貼付け位置の中心に当てます。ピーという音と共にディスタンスとリム径が入力されます。なお、ヘッドがリムに当たらない場合でも動きが停止するとセットされてしまいますので、このような場合は一度スケールを戻し **[STOP]** ボタンを押してから再度入力をやり直して下さい。(約1秒間停止しているとセットされます)

IN側にセットされたら、次にそのままOUT側の貼付け位置の中心にスケールを伸ばし、ヘッドの中心を当て修正面幅を入力させます。

入力後、スケールは確実に元に戻して下さい。戻ってなければ表示部に【E-E】と表示してスタートしません



IN側リム径入力後、リム径値が12インチ(30.4cm)以下の場合は別記 **アルミ簡易入力方式** に自動で切り替わります。(以後別記参照)

[START] ボタンを2度押して、タイヤが回転しバランス測定を行います。

バランス測定後、アンバランス量が表示され、自動的に停止します。次にIN側のアンバランスポイントに自動的に移動して停止します。そしてレーザーが出てきてウエイト取付位置をレーザーポイントします。

[NEXT] ボタンを押せば、OUT側のアンバランスポイントに自動的に移動して停止します。そしてレーザーがOUT側に移動しウエイト取付位置をレーザーポイントします。レーザーポイントの位置に表示されたウエイトを取り付け、修正結果の確認をするため **[START]** ボタンを2度押すと、レーザーが収納され、再度バランス測定を行います。



注 意

ホイールサイズが内径で13インチ未満は、レーザーポイントを行いません。
この場合は、ウエイト取付はIN側・OUT側共に真上にウエイトを取付けて下さい。
ディスタンス値+リム幅値=22.1cm以上ならば、レーザーポイントは届かないのでOUT側は22.0cmのポイントでレーザーポインターを行います。



注 意

ホイールが深くスケールがOUT側入力位置まで十分に届かない時は、届くところまでスケールを引き出し入力後スケールを戻し、修正面幅を定規で測り、**[↔]** スイッチを押し **[+]** 又は **[-]** スイッチで定規で測った値をcmで入力し **[SET]** スイッチを押して下さい。

(例えば修正面幅が14.5cmならば **[1][4][5]** と設定して下さい)

この場合、貼付位置はレーザーポインターを行いませんので、ウエイト取付はIN側OUT側共に真上にウエイトを取付けて下さい。

アルミ簡易入力方式 について

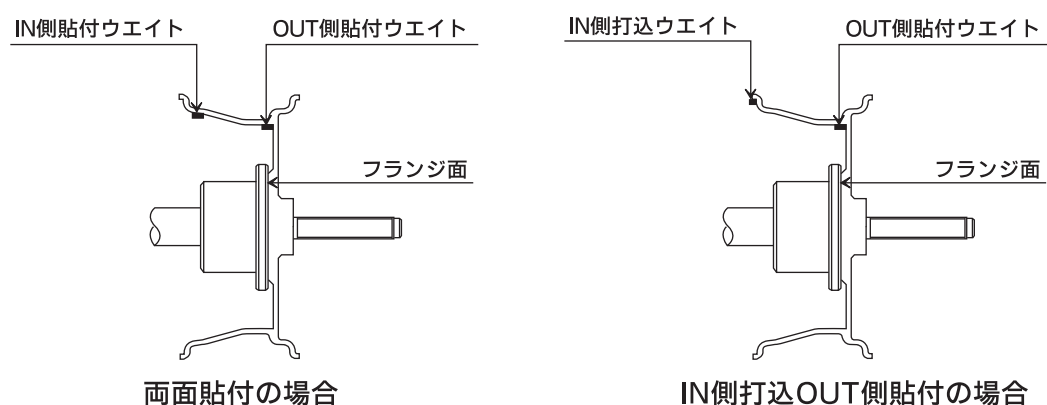
スケールのヘッドを I N側の貼付位置に当てます。

I N側リム径入力後、リム径値が12インチ(30.4 cm)以下の場合はブザーが2回鳴り
ディスタンスとリム径と修正面幅が入力されます。

I N側スケール入力後、スケールを確実に元に戻してください。

O U T側の貼付位置はフランジ面の位置で固定となります。

従って、バランス測定後O U T側にウエイトを取り付ける位置は、ウエイト中心がフ
ランジ面になる位置の真上に取り付けてください。



1-3. 手動入力の場合

1. リム径の入力

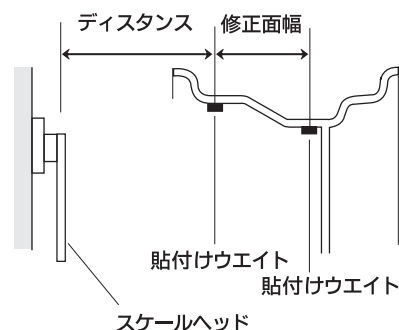
⑤スイッチを押して、ホイールに明記されているサイズを手動で入力します。

2. 修正面幅の入力

図のようにIN側のウエイト貼付け位置からOUT側のウエイト貼付け位置までの修正面幅を定規で測定し⑤スイッチを押し定規で測った値をcmで入力して下さい。

(例えば修正面幅が14.5cmならば

⑤ 1 4 5 ⑤ と押して下さい)



3. ディスタンスの入力

スケールのヘッドから I N側貼付け位置までを

定規で測定し⑤スイッチを押し定規で測った値をmmで入力して下さい。

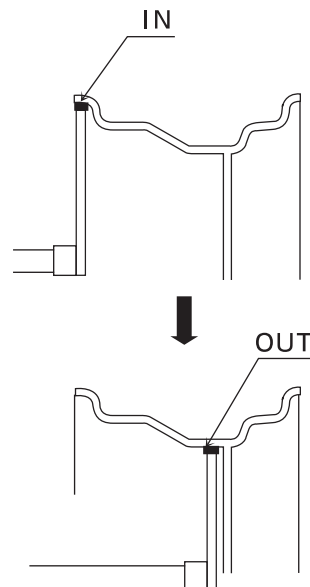
(例えばディスタンスが105mmならば ⑤ 1 0 5 ⑤ と押して下さい)

2. アルミの打込一貼付の場合

MODE を **ALU2** にして下さい。

2-1. スケール自動入力(レーザーは使用できません)

スケールのヘッドを内側のIN側打込み位置に当てます。
ピーという音と共にディスタンスとリム径が入力されます。
なお、ヘッドがリムに当たらない場合でも動きが停止すると
セットされてしまいますので、このような場合は一度スケール
を戻し **STOP** ボタンを押してから再度入力をやり直して
下さい。(約1秒間停止しているとセットされます)
IN側にセットされたら、次にそのままOUT側の貼付け位置
の中心にスケールを伸ばし、ヘッドの中心を当て修正面幅を
入力させます。
入力後、スケールは確実に元に戻して下さい。戻ってなけれ
ば表示部に【E-E】と表示してスタートしません。



IN側リム径入力後、リム径値が12インチ(30.4cm)以下の場合は
別記 **アルミ簡易入力方式** に自動で切り替わります。(以後別記参照)

START ボタンを2度押して、タイヤが回転しバランス測定を行います。
バランス測定後、アンバランス量が表示され、自動的に停止します。次にIN側のアン
バランスポイントに自動的に移動して停止します。ウエイトは真上に打ち込みます。
NEXT ボタンを押せば、OUT側のアンバランスポイントに自動的に移動して停止しま
す。そしてレーザーが出てきて、OUT側のウエイト取付位置をレーザーポイントします。
レーザーポイントの位置に表示されたウエイトを取り付け、修正結果の確認をするため
START ボタンを2度押すと、レーザーが収納され、再度バランス測定を行います。



注 意

ホイールサイズが内径で13インチ未満は、レーザーポイントを行いません。
この場合は、ウエイト取付はIN側・OUT側共に真上にウエイトを取付けて下さい。
ディスタンス値+リム幅値=26.1cm以上ならば、レーザーポイントは届かないの
でOUT側は26.0cmのポイントでレーザーポインターを行います。



注 意

ホイールが深くスケールがOUT側入力位置まで十分に届かない時は、届くところ
までスケールを引き出し入力後スケールを戻し、修正面幅を定規で測り、
スイッチを押し **+** 又は **-** スイッチで定規で測った値をcmで入力 **SET**
スイッチを押して下さい。

(例えば修正面幅が14.5cmならば **1****4****5** と設定して下さい)

この場合、貼付位置はレーザーポインターを行いませんので、ウエイト取付は
IN側・OUT側共に真上にウエイトを取付けて下さい。

アルミ簡易入力方式 について

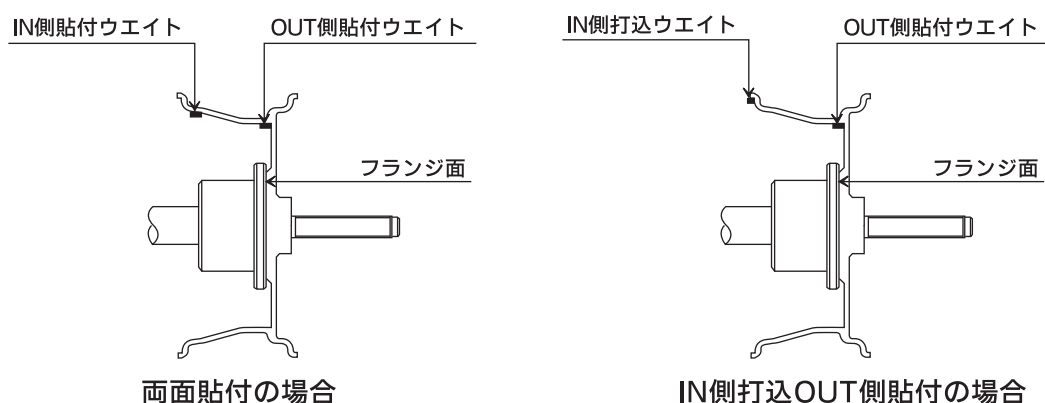
スケールのヘッドを I N 側の打込み位置に当てます。

I N 側リム径入力後、リム径値が 12 インチ (30.4 cm) 以下の場合はブザーが 2 回鳴り
ディスタンスとリム径と修正面幅が入力されます。

I N 側スケール入力後、スケールを確実に元に戻してください。

O U T 側の貼付位置はフランジ面の位置で固定となります。

従って、バランス測定後 O U T 側にウェイトを取り付ける位置は、ウェイト中心がフ
ランジ面になる位置の真上に取り付けてください。



2-2. 手動入力の場合

1. リム径の入力

④ スイッチを押して、ホイールに明記されているサイズを手動で入力します。

2. 修正面幅の入力

図のように I N 側のウェイト打込み位置から
O U T 側のウェイト貼付け位置までの修正面
幅を定規で測定し ④ スイッチを押して定規で
測った値を cm で入力して下さい。

(例えば修正面幅が 14.5 cm ならば

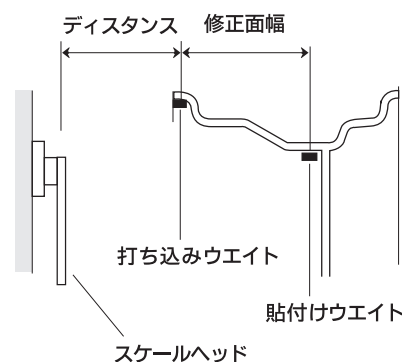
④ 1 4 5 ⑤ と押して下さい)

3. ディスタンスの入力

スケールのヘッドから I N 側打込み位置まで

を定規で測定し ④ スイッチを押して定規で測った値を mm で入力して下さい。

(例えばディスタンスが 105 mm ならば ④ 1 0 5 ⑤ と押して下さい)



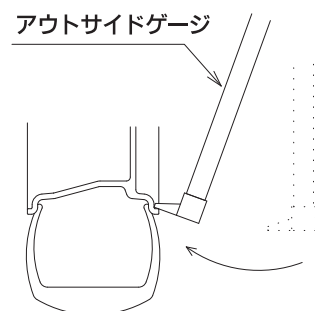
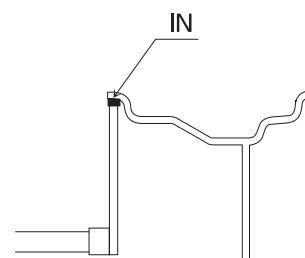
3. 両面打込の場合

MODE を **DYN** にして下さい。

3-1. ディスタンス・リム径の自動入力の場合

スケールのヘッドを内側のIN側打ち込み位置に当てます。
ピーという音と共にディスタンスとリム径が入力されます。
なお、ヘッドがリムに当たらない場合でも動きが停止するとセットされてしまいますので、このような場合は一度スケールを戻してから再度入力をやり直して下さい。（約1秒間停止しているとセットされます）

入力後、スケールは確実に元に戻して下さい。戻ってなければ表示部に【E-E】と表示してスタートしません。

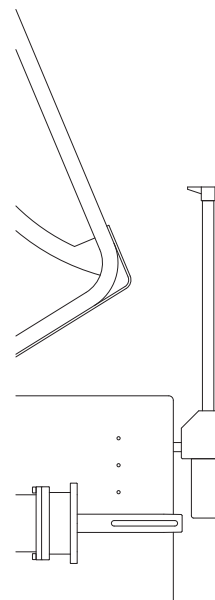


3-2. リム幅の自動入力の場合

アウトサイドゲージのヘッドをホイールのOUT側の打ち込み位置に当てます。

ピーという音と共にリム幅が入力されます。なお、ヘッドがリムに当たらない場合でも動きが停止するとセットされてしまいますので、このような場合は一度ゲージを戻してから再度入力をやり直して下さい。（約1秒間停止しているとセットされます）

入力後、アウトサイドゲージは右側に戻しソフトロックがかかる位置まで戻して下さい。戻ってなければ表示部に【H-E】と表示してスタートしません。



【定位置】

3-3. 手動入力の場合

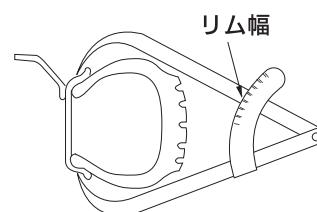
1. リム径の入力

④ スイッチを押して、ホイールに明記されているサイズを手動で入力します。

2. 修正面幅の入力

タイヤパスを図のように、イン・アウト両側のリムに当てゲージの幅を読みとり、④ スイッチを押して読み取った値を入力します。

（例えばリム幅が4.5Jならば ④ 4 5 SET と押して下さい）



3. ディスタンスの入力

スケールのヘッドからIN側打ち込み位置までを定規で測定し ④ スイッチを押して定規で測った値をmmで入力して下さい。

（例えばディスタンスが105mmならば ④ 1 0 5 SET と押して下さい）

START ボタンを2度押して、タイヤが回転しバランス測定を行います。

バランス測定後、アンバランス量が表示され、自動的に停止します。次に I N 側のアンバランスポイントに自動的に移動して停止します。ウエイトは真上に打ち込みます。

NEXT ボタンを押せば、OUT 側のアンバランスポイントに自動的に移動して停止します。ウエイトは真上に打ち込みます。

4. スタチックモードの場合

MODE を **ST** にして下さい。

ディスタンス・リム径の入力

スケールのヘッドをウエイト取付位置に当てます。

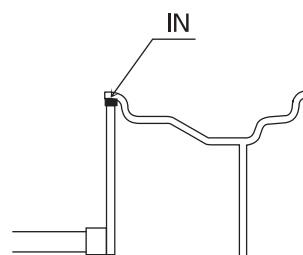
打込ホイールならホイール耳部、貼付ホイールなら貼付部にスケールヘッドを当てます。

ピーという音と共にディスタンスとリム径が入力されます。

なお、ヘッドがリムに当たらない場合でも動きが停止するとセットされてしまいますので、このような場合は一度スケールを戻し **STOP** ボタンを押してから再度入力をやり直して下さい。(約 1 秒間停止しているとセットされます)

入力後、スケールは確実に元に戻して下さい。戻ってなければ表示部に【E-E】と表示してスタートしません。

スタチックではリム径のみ入力するだけで結構です。



START ボタンを2度押して、タイヤが回転しバランス測定を行います。

バランス測定後、アンバランス量が表示され、自動的に停止します。次にアンバランスポイントに自動的に移動して停止します。ウエイトは真上に取付けます。

5. LTモードの場合

MODE を **LT** にして下さい。

入力方法・ウエイト取付方法は、両面打込 **DYN** と同じ方法です。

両面打込 **DYN** を参照下さい。

(7)修正結果の確認

ウェイト取付け作業が終了したら、再度スタートスイッチを押しチェックします。バランス修正がOKならばイン・アウト共に【OK】と表示されます。1度でOKしない場合は表示に従い再度バランス修正を行って下さい。

(8)ファインスイッチ

FINE スイッチを押すことにより、通常5 g単位表示が1 g単位で表示されます。

(9)ロック／解除スイッチ

バランス測定後、自動的にアンバランス位置でロックがかかります。ロックするのは約20秒間ロックして、その後解除されます。再度 **LOCK** スイッチを押すことにより、アンバランス位置でロックされます。また、ロック中に **LOCK** スイッチを押すとロック解除します。

(10)再演算機能

ホイールデーターを間違えて入力して測定した場合、再度タイヤを回して測定しなくても再演算機能を使えば正しいグラム・位相を求める事ができます。

測定終了後、正しいホイールデーターを入力して $\textcircled{\text{SET}}$ スイッチを押せば、正しいグラム・位相の表示になります。

(11)WAS機能の使用方法

WASは **ALU1** または **ALU2** モードの時、アルミホイールでスポークホイールのバランス修正時、ウエイトが外側から見え、ホイールの美観を損なう場合、WAS機能でウエイトを2本のスポークの裏側に分割して貼り付ける機能です。

WAS使用法は2パターンあります。

A. レーザーポインター有りの場合

B. レーザーポインター無しの場合

A. レーザーポインター有りの場合

アウト側のアンバランス表示の時にレーザーポインターしている場合。

- ①アウト側の貼り付ける位置がスポークの裏側でない位置をレーザーポインターしている時に **WAS** スイッチを押すと、画面がWASモードに変わります。
- ②画面の指示に従い、アウト側のアンバランス位置に一番近い位置の、スポークの2本の内のどちらかのスポークを、レーザーポインターを見てホイールを回し **SET** スイッチを押して下さい。
- ③次にもう1本のスポークをレーザーポインターを見てホイールを回し **SET** スイッチを押して下さい。
- ④アウト側グラム表示にスポークの2本目のアンバランス量が表示され、ロックされます。
- ⑤次に **NEXT** スイッチを押すと自動的にスポークの1本目の位置に移動・停止・ロックし、アンバランス量を表示します。
- ⑥さらに **NEXT** スイッチを押すと自動的にイン側のアンバランス位置に移動・停止・ロックし、アンバランス量を表示します。

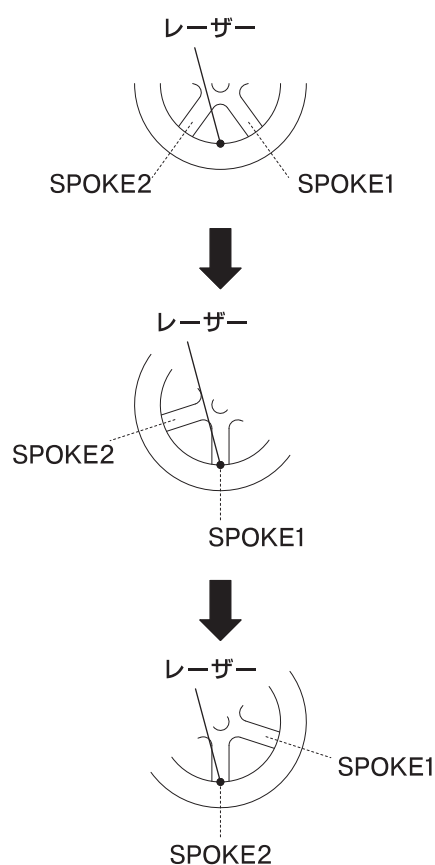
NEXT スイッチを押すたびに

【SPOKE 2】→【SPOKE 1】→【IN】→【SPOKE 2】と移動・表示を繰り返します。
ウエイトの取付けを終えたら **START** スイッチを2度押して、測定を行います。

WAS時はアンバランス量は1 g単位で表示します。

途中でWASモードを解除したい時は

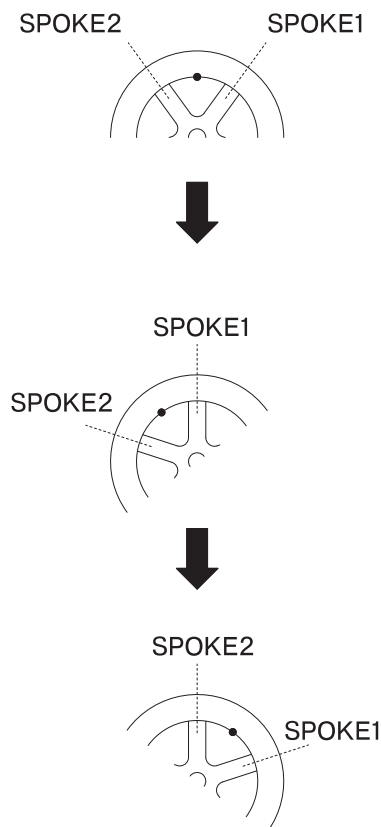
WAS スイッチを押すと解除され、WASモードをする前の状態に戻ります。



B. レーザーポインター無しの場合

アウト側のアンバランス表示の時にレーザーポインターしてない場合。
ウエイト取付位置が真上の場合。

- ①アウト側の貼り付ける位置がスポークの裏側でない時に **WAS** スイッチを押すと画面がWASモードに変わります。
- ②画面の指示に従い、アウト側のアンバランス位置に一番近い位置の、スポークの2本の内のどちらかのスポークを、ホイールを回して真上の位置で **SET** スイッチを押して下さい。
- ③次にもう1本のスポークをホイールを回し真上の位置で **SET** スイッチを押して下さい。
- ④アウト側グラム表示にスポークの2本目のアンバランス量が表示され、ロックされます。
- ⑤次に **NEXT** スイッチを押すと自動的にスポークの1本目の位置に移動・停止・ロックし、アンバランス量を表示します。
- ⑥さらに **NEXT** スイッチを押すと自動的にイン側のアンバランス位置に移動・停止・ロックし、アンバランス量を表示します。



NEXT スイッチを押すたびに

【SPOKE 2】→【SPOKE 1】→【IN】→【SPOKE 2】と移動・表示を繰り返します。
ウエイトの取付けを終えたら **START** スイッチを2度押して、測定を行います。

WAS時はアンバランス量は1 g単位で表示します。

途中でWASモードを解除したい時は

WAS スイッチを押すと解除され、WASモードをする前の状態に戻ります。

(12)MT機能の使用方法

マッチングシステム（MT）とは、タイヤ・ホイールのアンバランスを各々求めて、アンバランスが最小となるタイヤとホイールの組み合わせを指示するシステムです。

以下の操作はいずれも不正確な作業がありますと正確なマッチングができませんので注意してください。



注 意

通常のバランス測定を行って、アンバランス量が多い場合に行いますが
マッチング機能を使用できるのは、スタチックアンバランス量で50g以上ある場合に
マッチング機能が使用出来ます。
スタチックアンバランス量が50g以下の場合はマッチングモードに入れません。

①通常のバランス測定を行います。

アンバランスを表示した後、**[MT]** スイッチを押すと、マッチングモードの画面に変わり
操作ガイド①に変わります。

画面の指示に従い、手でタイヤを回してバルブ位置を真上にして **[SET]** スイッチを押
します。

②操作ガイド②に変わります。

いったんタイヤ・ホイールを balanサーから外し、タイヤチェンジャーで、タイヤを現在
のホイールの位置に対して180° 組み替えます。再びタイヤ・ホイールを balanサーに
装着して **[START]** スイッチを押してバランスを測定します。

③自動停止と共に操作ガイド③に変わります。

手でタイヤを回してバルブ位置を真上にして **[SET]** スイッチを押します。

④操作ガイド④に変わります。

矢印方向にタイヤ・ホイールを回して、ピー音が鳴る位置でタイヤの真上にマークを付けて
ください。再度タイヤ・ホイールを balanサーから外して、タイヤのマーク位置とホイール
のバルブ位置が一致する様に、タイヤチェンジャーで組み替えてください。

組み替えたら **[SET]** スイッチを押してください。画面が通常の測定画面に戻ります。

以上でマッチング作業終了です。再びタイヤ・ホイールを balanサーに装着して、通常の
バランス測定を行ってください。

途中でマッチングモードを中止する場合は、

[MT] スイッチを押すと解除され、マッチングモードをする前の状態に戻ります。



注 意

タイヤとホイールを組み替える際に、タイヤとホイールのかみ合いが悪い場合
(ビードが完全に上がっていない場合など)マッチング途中のタイヤ内圧が著しく
違う場合、不適切な作業をした場合などは、正常なマッチングが出来ません。

6.標準付属品・オプション部品

●標準付属品

- ①コーンS・M・L・LL
- ②カップ
- ③バックスプリング
- ④カラーC1・C2
- ⑤クランプナット
- ⑥タイヤパス
- ⑦ウェイトプライヤー
- ⑧アンカーボルト
- ⑨締め付けレンチ
- ⑩取扱説明書
- ⑪保証書

●オプション部品

- ①4Lコーンセット
- ②LTコーンセット
- ③フランジアダプターセット

7.定期点検

(1)定期点検

期 間	点 検 箇 所	点 検 項 目	点 検 要 領
毎 日	ペ ダ ル	動 作	スムーズに作動するか→グリス塗布
	エアロック	動 作	スムーズに作動するか
	フ ィ ル タ ー	ド レ ン	カップ内のドレン→水抜きを行う
	減 圧 弁	調 整 圧	0.4 MP aになっているか
毎 週	オ イ ラ ー	オ イ ル	オイルの補給→タービン油(ISO.VG32)
3ヶ月毎	先 端 軸	緩 み	増し締めをする

(2)消耗品

次の部品は使用頻度(損傷・磨耗状態)により新品と交換して下さい。

品 名	部 品 番 号	販 売 単 位	備 考
カップのゴム		1	1 / 1 台
ベルト 2-5M-1250		1	1 / 1 台

8.故障と処置

故障かなと思われる前に、もう一度確認して下さい。

異常が生じた時は、この取扱説明書をよくお読み頂き、下記の点検をした上で、それでも不都合がある場合は弊社、もしくはお買上げ販売店に御相談下さい。

症 状	原 因	処 置
電源が入らない	お客様のブレーカのヒューズが切れている	ヒューズを交換する
電源が入るけれどもホイールが回転しない	お客様のブレーカのヒューズのうち1本が切れている	ヒューズを交換する
他のホイールのバランスは修正出来るけれどもそのホイールだけが修正出来ない	タイヤの中に異物、水などが入っている	異物、水などを取り除く
【E-E】と表示する	スケールが出ている	スケールを最後まで戻す

その他の症状について

(1) バランスの修正ミス

(イン・アウトの修正位置が逆になっているとか修正位置が間違っていないか)

(2) 1回でOKしない場合

アンバランス量が大きい場合(50gを越えるような場合)

若干の測定誤差とウエイト量の誤差、及びウエイトの打ち込み位置のそれによって1回でOKしない場合が出てきます。故障ではありません。

(1) 自己校正

- 自己校正はバランス修正が日常の使用でタイヤ・ホイールバランスが良好でない時に実施して下さい。
- 自己校正は一般的なスチールホイール（13～15インチ）程度を使用して下さい。
参考：正確な修正結果を得るためには、アンバランスの少ないホイールが必要です。
（最大40g）

操作手順

- ①13～15インチ程度のホイールを balanサーに取り付けて下さい。
- ②スタートスイッチを押しながら電源スイッチを押して電源をいれて下さい。
IN側表示が【P－】とでたらスタートスイッチを離して下さい。
- ③リム径入力スイッチ（）を押して下さい。IN側表示が【P－1】となります。
- ④通常の測定と同じようにディスタンス、ホイール径、ホイール幅を入力して下さい。
- ⑤スタートスイッチを押してホイールを回転させてください。回転が止まったらIN側表示に【100】と表示されます。通常のアンバランス修正と同じ様に、指定された場所に50gウェイト2個を取付けてください。ウェイトを取付け終わったらスタートスイッチを押してホイールを回転させて下さい。
- ⑥回転が止まったらOUT側表示に【100】と表示されます。IN側の50gウェイト2個を取り外して、通常のアンバランス修正と同じ様に指定された場所に50gウェイト2個を取付けてください。ウェイトを取付け終わったらスタートスイッチを押してホイールを回転させて下さい。
回転が止まったら自己校正は完了です。
（操作が間違っていなければ balanサーの精度は正確に校正されます。）



注 意

OUT側に100gを取り付ける時は正確に取り付けて下さい。

(2) 軸アンバランス校正

- ホイールなど何も付けずに balanサーを回転させて測定したときにアンバランスが表示される時は取付け誤差の原因となりますので次の方法で修正して下さい。

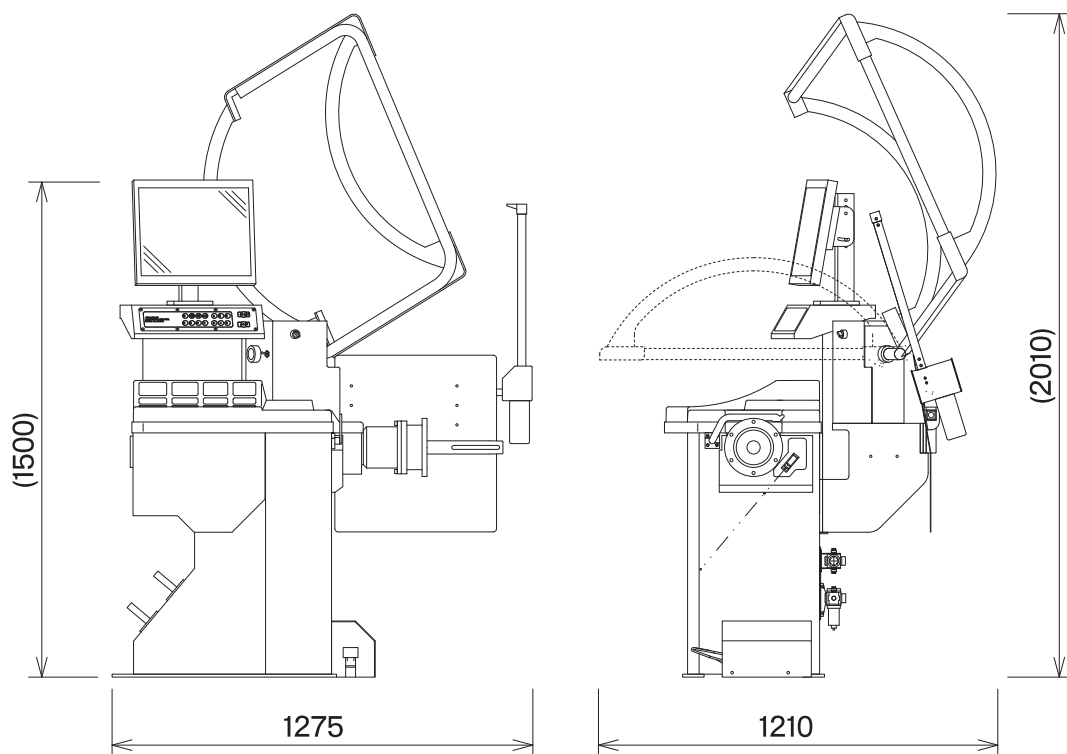
操作手順

- ①balanサーにはホイール・タイヤなど、何も取り付けずに下さい。
- ②スタートスイッチを押しながら電源スイッチを押して電源をいれて下さい。
IN側表示が【P－】とでたらスタートスイッチを離して下さい。
- ③リム幅入力スイッチ（）を押してください。IN側表示が【P－2】となり、OUT側表示が【001】と表示されます。
- ④スタートスイッチを押して回転させて下さい。
- ⑤回転が停止したら、OUT側表示が【002】と表示されます。
- ⑥再度スタートスイッチを押して回転させて下さい。回転が停止したら軸アンバランス校正は完了です。

9.仕様・本体寸法

型 式	DX-B1-MAX	
電 源	3相 200V	
モ ー タ ー	0.4kW 6 P ブレーキモーター	
測 定 回 転 数	約240rpm (50/60Hz)	
測 定 方 式	両面同時測定	
適 応 ホ イ ール 径	2"～30"	
適 応 ホ イ ール 幅	2"～15"	
自 動 入 力 シ ス テ ム	リム径・リム幅・ディスタンス	
	レーザー	14"～30" (内径300mm～800mm)
	スケール	12"～26"
最 大 測 定 重 量	75kg	
最 大 タ イ ヤ 外 径	900mm	
測 定 範 囲 g	0～500 g	
使 用 範 囲 照 度	太陽光：10,000ルクス以下 白熱ランプ：3,000ルクス以下	
本 体 重 量	約230kg	

ブレーカー容量：20A(3相200V)



10. 製品保証規定

(1) 保証規定

取扱説明書、本体警告ラベル等の注意書に従って正常な使用状態で保証期間内（納入後1年以内）に故障した場合は、弊社の責任に於いて無償にて欠陥部品の手直し、修理、取り替え、交換部品の送付をさせていただきます。

但し、二次的に発生する損失の補償及び、次の場合に該当する故障は保証致しません。

- ①使用上の誤り、保守点検、保管等の義務を怠ったために発生した事故及び損傷。
- ②商品の作動機構に悪影響を及ぼす変更（改造）を加え、それが原因で発生した故障及び損傷。
- ③消耗品が損傷し取り替えを要する場合。
- ④火災、地震、風水害、落雷、その他天災地変等、外部に要因がある故障及び損傷。
- ⑤指定された純正部品をご使用されなかったことに起因する場合。
- ⑥日本国以外でご使用の場合。
- ⑦保証手続きが不備の場合（例：型式及び機体番号の連絡が無い場合etc）。
- ⑧設置に原因がある故障及び損傷。



注 意

**このホイールバランスは屋外設置及び防水仕様にはなっておりませんので
錆、腐食、漏電等の水による故障は保証いたしておりません。**

(2) 保証請求方法

上記規定に基づき、本製品の保証請求を行う場合は、お買上の販売会社にご一報下さい。
必要な手続きを実施いたします。

尚、保証の要否は大変勝手ながら弊社に於いて判断させていただきますのでご了承下さい。

(3)アフターサービスについて

調子の悪いとき	この取扱説明書の8項の故障と処置欄をご覧ください。
それでも調子の悪いときは	商品保証規定に従い修理をさせていただきますのでお買上販売会社へ修理を依頼して下さい。
保証期間中の修理について	保証期間は納入後12ヶ月以内です。商品保証規定の記載内容に基づいて修理させていただきます。
保証期間後の修理について	お買上販売会社にご相談下さい。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望によって有料修理いたします。
アフターサービスについての詳細、その他ご不明な点はお買上販売会社にお問い合わせ下さい。	
お問い合わせいただく際は、次のことをお知らせ下さい。 型式・機体番号・購入年月日・故障状況(できるだけ詳しく)。	

上記の事項を下表に記録しておくとお問い合わせの時便利です。

型 式	
機 体 番 号	
購 入 年 月 日	年 月 日
販 売 会 社	社名 担当者
	住所 電 話
設 置 業 者	社名 担当者
	住所 電 話
故 障 日 ・ 状 況	年 月 日
	年 月 日

(4)設置(据付)及び移設について

本製品の設置(据付)及び移設は、お買上販売会社へ依頼して下さい。

移設の場合は販売会社による点検を実施して下さい。

取扱説明書

品 名 ホイール balans ー

型 式 **DYNAMAX B1-MAX**

初 版 発 行 月 日	平 成 2 5 年 6 月 1 日
-------------	---------------------------

改 訂 発 行 月 日	平 成 2 6 年 8 月 1 日
-------------	---------------------------

改 訂 発 行 月 日	平 成 年 月 日
-------------	-----------------------------

改 訂 発 行 月 日	平 成 年 月 日
-------------	-----------------------------

編 集 兼 発 行 者	機 工 技 術 部
-------------	-------------------

発 行	小 野 谷 機 工 株 式 会 社
--------------------------	-------------------

無断複写・掲載を禁ず

ONODANI 小野谷機工株式会社

本社／福井県越前市家久町63-1 ☎(0778)22-2124(代)

営業所／札幌	☎(011)791-8588	名古屋	☎(052)354-1021
仙台	☎(022)255-7408	大阪	☎(06)6701-7315
秋田	☎(018)800-2556	福井	☎(0778)21-0335
東京	☎(03)5970-6011	広島	☎(082)943-8455
新潟	☎(025)281-8251	福岡	☎(092)582-6743

「販売会社又は施工業者の方へお願い」
この取扱説明書は、お客様に必ず渡してください。